

# 園だより



第 6 号

平成 26 年 8 月 28 日

## あたり前を大切にしたい…

先日、地下鉄で 3 人掛けの席の真ん中に座り横に荷物を置いて幅を取り、周りに目もくれずスマホに夢中になっている高校生を見ました。近くには立っている乗客もかなりいましたので、つつい“もっと詰めなさい…”と声をかけてしまいました。

“乗り物等で席をできるだけ詰めて座る…”それは、当たり前のことですが、時には注意された意味が理解できずに暴力等で向かってきて事件になることもある昨今の悲しい社会状況もあります。

そのことから、今、教育の見直しの必要性が行われていますが、その要因は人間社会で生きるうえでの当たり前のこと（基礎・基本）をないがしろにしてきた歪みの表れでもあります。（偏差値ばかりに目を向けた教育への反省も…）

「互いに心地良く生きるために、他を思いやり迷惑になることや嫌がることをしない…」 そんな当たり前を教えることを忘れてきた学校や家庭での教育を、今、見直さなければならない状況にあります。

（それがいじめをなくす決め手にもなるのでは…）

つい最近、車道をスマホに夢中になって車に向かって歩いてくる若者にも出会い、注意を促すと怒りの眼差しで睨みつけられた経験もしました。

当たり前のことができないと他に迷惑をかけるだけでなく命を失う危険に直面することさえあることも忘れてはなりません。

“当たり前のことって何だろう…” 今、教育に携わる者として、私自身もちょっと立ち止まって考えてみたいと思います。それは、日本人が先祖代々大切に築いてきた風習や習慣でもあります。（復古主義ではなく…）

- 人に会ったら、お辞儀をし挨拶をする（ばんけい幼稚園の子ども達は素晴らしい）
- 道で人とすれ違う時や入口・エスカレーター等で、立ち止まって先を譲る
- ごみが落ちていたら、拾って始末をする（サッカーW杯での日本人の行動に賞賛が）
- 物を食べる時には、立ち歩かないで座って食べる（食事中の話題や行動にも配慮）
- 家に入る時には、玄関で挨拶をしきちんと靴を揃える
- 飛行機や列車で座席に座る時には、隣の人にちょっと会釈をする

等々、また、五輪招致の時に話題になった「おもてなし」も、日本では当たり前のこととされています。そのどれもが日本人が長い歴史の中で培ってきた素晴らしい文化・伝統です。少し視点は逸れますが、犬の散歩で飼い主が汚物を始末する国は他にはないと聞きます。（他に嫌な思いをさせない配慮）

私達は、こんな文化や伝統を持つ国に生きています。それは国の外で生活してみると、その素晴らしさに気づきます。（豊かな自然に恵まれているからかもしれません）

教師や親・大人社会は、そんな素晴らしい文化や伝統を持っていることを知って、「日本の当たり前」を見直し、自信を持って子ども達に伝えていって欲しいと願っています。

二学期をスタートするにあたり、全職員で下記のことを確認して活動を進めます。12月までの長い期間、運動会をはじめ山の子祭り等、多くの行事も計画されています。保護者の皆様と共通の考えを持って力を合わせ、一人ひとりの子どもが豊かな自然の中で楽しく活動し、それぞれの個性や能力が輝きを増し成長する姿を見せてくれるように努力します。

## 二学期の教育を進めるに当たって…

=子どもの<自分から…自分で…>を大切にする指導=

ばんけい幼稚園は大切な宝石の原石を預かり、教育をしている。将来、その原石はそれぞれに異なった素晴らしい光を放つ可能性を秘めている。間違った磨き方をしないようにし、心と身体のバランスの取れた成長をするように心がけ、運動会等の行事があり顕著な育ちの姿が見られる二学期の教育に、全員が一致協力し全力を尽くして子ども達を育てていきたい。

### 《質の良い教育の工夫》…活動の過程で一人ひとりの個性や能力を認め伸ばす

1. 一律均等主義の指導に陥らないように留意し、一人ひとりの子どもが持っている個性と能力を大切に教育を工夫する（欠点指摘型指導に陥らない長所伸長型指導）
2. 子どもが興味や関心・意欲をもって活動することを大切にし、性急に結果を求めず活動の過程を重視する（一つひとつの活動に十分時間をかけ、結果を急がない指導）
3. 保護者の願いや評価に謙虚な姿勢で耳を傾け素早い対応を心がけ、子どもが安心して楽しく活動し保護者に信頼される教育をめざす（親の目線で子どもを見て、子どもの目線で子どもに接する）
4. 教師は研修の成果を実践に活かし“ばんけい幼稚園の教育”の質をいっそう充実発展させていく意欲と心構えで指導する（実力を磨き、謙虚な姿勢で）
5. 関係機関等との連携協力を積極的に行い、幼稚園・家庭・関係機関が共通の意識を持って効果的な指導を進める（札幌市幼児教育センター・公立幼稚園・大学や研究機関・進学する小学校との連携）

### 《子どもの安全管理》…最悪を想定し油断することなく最善を尽くす

1. 社会環境や自然環境の変化を敏感に捉え、子どもが事故や事件に遭遇しないよう安全管理マニュアルを基に最善を尽くす…環境の変化に即した自然の活用
2. 怪我などの事故に遭うことがないように十分気を配り、学年やグループの教師同士が役割分担し連携協力して事故防止に努める…油断せず状況把握と備えの確認
3. 常に身の周りの危険を予測し、最悪を想定して最善を尽くす…情報収集・活動の場所選び・危険に備えての機器や用具の確認

### 《謙虚な姿勢と自信を持った指導》…きめ細かな観察と適切な指導の工夫

1. 子どもがおかれている状況や実態をよく把握して教師としての責任を認識し、相手（子どもや保護者）の立場になって誠意を持って素早い対応をする
2. 社会の状況や出来事によく目を向け、それを自らのこととして受け止め、広い視野を持って日常の指導に活かし具現化していく
3. 園だよりや学年だよりを通して、園の状況や姿勢を詳しく伝え理解を得て、保護者と一体となり連携協力して子どもを育てる
4. 虹の会の“保護者が互いに学び合い支え合う役割”を大切にし、積極的に支援する。

### 《感染症予防のための対策》…手洗い・うがいの徹底と家庭との連携協力

1. 手洗い・うがいを徹底する  
※子ども同士の教え合いや子ども自身の意識を大切に（O157・インフルエンザ等の予防対策）
2. 子どもの健康状態を注意深く観察し、家庭との連絡を密にする…迅速な対応と医療機関や家庭との連携協力
3. 幼稚園と家庭が情報を共有し、効果的な対応を行う…関係機関や園医との連携協力

=一人ひとりの子どもの長所に目を向け、結果よりも過程を大切に教育=

## 父さんの会より

ご参加いただきましたお父様方と有意義な懇談を行うことができました。お母様方が多く参加される井戸端会議とは異なる視点での話し合いが行われ、これからの「ばんけい幼稚園」の教育に活かしていく貴重な内容も多くありました。参加いただきました皆様に心から感謝します。

- 自然の中で多くの活動ができることに価値を感じ子どもの育ちも見えるので、今後も“ばんけい幼稚園の基本”として大切にしていきたい。
- 辛いことや苦しいことを避ける傾向がある今の教育や子育てによって、社会に適応できずにいる人間が多くなり歪みも表れている。精神的にたくましく生きる情熱を持つ子どもを育てることを心がけることが求められる。
- ネット依存については、今、大きな社会問題になっている。電子機器やテレビなどの扱いについては、家庭をはじめ学校や社会全体で真剣に考えて対応していく必要に迫られている。これについては、小さい時からの習慣づくりが求められるので、幼稚園としても、随時、問題提起を続けていきたい。
- 食の教育については多様な考えがあるので、それにしっかりと耳を傾けると共に互いの考えを尊重して適切に対応することが求められる。
- 子どもの発達の違いについては、一人ひとりの子どもが持っている個性や能力・を見て、他と比べずに見守ることが大切である。

## 交通安全を…

### ＝横断歩道が危ない＝

横断歩道で信号を守りながら渡っていて交通事故に遭い、尊い命を失うという最悪の事態になることが数多くあります。それは子どもだけでなく、幅広い年齢層で見かけられます。

この様な事故は、横断歩道を絶対安全な地帯と思い込み注意を怠ったり全力で走ったりして渡ることも、その原因になっています。子どもには“横断歩道が危ない”ことを理解させて、左右によく注意しながら、できるだけ速く渡るように教えなければなりません。右折や左折する車の不注意や信号無視もあります。

横断歩道の渡り方は交通安全指導の要素が凝縮されていて、横断歩道を安全に注意しながら渡れることは、他の道路でも安全な歩行ができることに結びつきます。

また、通園バスを待つ時に、駐車場から出て来る車にも十分気を付けなければなりません。一緒について来た小さい子どもが事故に遭う例もありますので、手を離さずによく注意してバスを待つていただくことをお願いします。バスが発車する時に、子どもが衝動的に行動することもありますので、そのことを頭に入れておいていただくことをお願いします。

※バス停での待つ時には、近くに住む人々への配慮もお願いします。

## 味覚の秋

ばんけい幼稚園の畑には、ミニトマト・キュウリ、インゲン・ダイコン・枝豆・等々が実り、収穫の秋を迎えています。赤組は親子で芋ほりをして新芋を味わいました。この後、緑組の枝豆の収穫があり、最後には青組がばんけいの畑で育てた野菜を調理してカレーライを作ります。

みんなで味わい、自然への感謝の心を持って収穫の秋を喜びを合います。

## 「心の余裕」を持って子育てを…

親は我が子の幸せを願って、時には自らのことを犠牲にしても子どものために一生懸命に努力します。それが親としての自然な姿であり、成長や絆づくりに結びつくのは間違いありません。

しかし、そのことで他と比べて焦りが出たり悩みや迷いが出たりして、それがもつて時には虐待のようになる悲しい出来事が生じることもあります。

そんな親としての努力は大切であることは否定できませんが、子どもにとっても、親が自分にばかりに気が向いていることに負担や窮屈さを感じる場合もあります。

そのことで、親の目を気にして“いい子の面ばかり”を見せようとし、のびのびと行動できずに自分からやろうとする自主性や積極性が身につける機会を失うこともあります。

時には、やんちゃ振りを発揮したりいたずらをしたりするのが子ども本来の姿であり、それが人間形成に役立ち、大きくなってからの苦難や障害を乗り越える力に結びつくことがあります。

そこで大切なのは、親が「心の余裕」を持ち、子どもをゆったりと見守ることが求められます。そのためにも、子どもの親同士で共通の認識を持ち理解し合える仲間づくりが大切であることは言うまでもありません。

親が心の余裕を持つためには、子育てだけにエネルギーを使うのではなく、趣味や仲間との交流、時には絵画や音楽鑑賞等をして広い視野を持つことも大切です。

子どもが幼稚園に来ている時間を有効に使って、親が自らを磨くことにも力を注いでいただくことを願っています。

それが良い子育てに結びつくと確信しています。

楽しみながら子育てをし表情豊かに子どもに接していくことで、子どもは心が安定し、辛いことや苦しいこともたくましく乗り越える人間に育っていきます。時折、幼稚園においでになって子どもの成長の姿をしっかりと確かめて、可能性を信じ穏やかな心で子育てをしていただくことを願っています。

“無理なく、楽しく、ゆったりと…”は、子育てにも通じる親の心構えでもあります。